

地理歴史科（歴史総合）／情報科（情報Ⅰ）／特別活動（図書館活動，活用）

「新聞記事から生徒主体の学習を構築する」—自ら思考し、判断する生徒の育成を目指して—
指定校 2 年次 長野県田川高等学校 先 皇太

（１）本年度のN I E 活動の概要

研究指定校 2 年目の本校では、①生徒がより新聞に触れることができる機会を増やすこと、②昨今重視される I C T と N I E の親和性を検討すること、③教科授業のなかで新聞を活用して生徒が生きる実社会とのつながりを感じる学びを設計すること、上記 3 つのことを目標として N I E の実践を計画した。

上記の目標を踏まえ、本年度は 3 学年，地歴公民科，情報科，国語科において，N I E の実践を行ってきた。その際、新聞をただ読ませるのではなく，記事の内容を分析するとともにそこから思考し，生徒自ら判断する学習を構築することを目的に，研究指定校 2 年目の実践を行った。

これらの実践では，生徒が学ぶ教科授業や各種の学習活動と，実社会で起きている様々な事象のつながりを，生徒が感じ，考察できるような学びを行うことができた。また，今回の実践はいつでも，どこでも，だれでも，それぞれの授業に置換可能なものになったと考えられる。

（２）本校のN I E 活動の取り組み状況

本校は全校生徒 542 名，各学年 5 クラス，全 15 クラスの全日制普通科の公立高校である。令和 2 年度に各教室に電子黒板が設置され，令和 3 年度入学生より一人一台タブレットでの授業，それにともなう教育アプリの導入（すらら、ロイロノート）など，この数年で I C T を活用する環境が一気に整備されてきた。

昨年度より N I E 研究指定校に認定されたが，それ以前から各学年のフロアに新聞と読むための書見台を設置しており，日常的に新聞に触れられる環境を作ってきた。また，3 学年では，進路指導担当の職員による，生徒が関心を持ちそうな記事，就職活動に関わる記事などを学年フロアの廊下に掲載し，生徒が新聞記事に目を向けやすくすることで，生徒が自身の進路，未来に関わる情報を獲得する機会を積極的に設けている。また，昨年度は教科学習においては，地理歴史・公民科での活用がメインだったが，本年度は国語科や情報科などでの実践も見られ，N I E の広がりを見せている。

生徒の家庭の多くは新聞購読をしておらず，家庭で新聞を読む経験は少ない。新聞に親近感を持ってない生徒が多いことを意識した上で，学校においてどのように新聞を活用するべきなのかを今後も検討していく必要がある。

（３）N I E 活動の狙い（育てたい力）

本校には「尚学共助—学ぶ心を尚（とうと）び，互いに教え励ましあう—」という建学の精神を持っており，この建学の精神に則り，集団生活で相互に助け合い，一般教養とコミュニケーション力を身に着け，そして将来の地域経済・福祉に貢献することを目指す生徒の育成を目標として掲げている。そのような目標を掲げている本校では，本年度の教科学習・特別活動での N I E 活動を通して，以下のような力を育てることを狙いとした。

- ① 現代社会をあらわす記事を読み，生徒自身の教科学習・特別活動とのつながりを見いだす力
- ② 新聞から得た情報を収集し，整理，表現する力
- ③ 正確な情報から記事を作成するプロセスを，生徒自身が思考・判断・表現する学習に置換する力

(4) 全校での取り組み

① 3 学年・図書館におけるN I E の実践

3 学年では、進路指導担当が教室フロアの廊下に進学や就職といった新聞記事を掲示し、生徒の進路学習への意識・関心を高めた。また、大谷翔平や藤井聡太といった、生徒が関心を持ちやすい記事を掲示し、新聞を読むきっかけづくりを行った。

また、図書館司書を中心に、田川高校に関する記事を新聞から見つけ、それを掲示するという活動も行った。生徒にとっては、自分の学校の記事には関心があるようで、多くの生徒が足を止めて、記事を読む姿が見られた。

それとは別に、来客用玄関前にも、田川高校に関する記事を掲示するよう、事務室が対応している。学校を訪れた人にも田川高校の様子の記事から読み取ってもらえるようにしている。



図 1 田川高校に関する記事を紹介する掲示板

② 教科教育での実践

現代社会（3 年次履修）や歴史総合（1 年次履修）では、授業の冒頭や隙間の時間などを使い、信濃毎日新聞社作成の学習シートを配布し、取り組む時間を作った。新聞の読み方を理解する訓練として実施している。

また、情報 I（1 年次履修）の授業では、タイピング練習の教材として、信濃毎日新聞のコラム【斜面】を利用している。おおよそ 600 文字という、10 分間のタイピング練習にちょうどよい課題になると考え実施した。タイピング訓練だけでなく、読み方がわからない、知らない語が明確になるという思いがけないメリットもあった。

現代の国語（1 年次履修）では、授業の冒頭に、NIE 推進協議会からの助成による各社の新聞記事を使用し、各生徒が気になった新聞記事を紹介する学習を行った。記事の概要をとらえ、要約する力を身に着けるとともに、自身の考え、思いを他者に伝える学びとして実践することができた。



図 2 学習シートを使う生徒



図 4 新聞記事を紹介する生徒

(5) 公開授業などの活動内容

①日時 令和 5 年 10 月 27 日（金） 6 時限目（14:30～15:20）

②場所 長野県田川高等学校 パソコン教室

③学年・講座 1 学年 5 組（男子 22 名 女子 16 名）

④授業者：地理歴史・公民・情報科 教諭 先 皇太

⑤助言者：長野県N I E 推進協議会アドバイザー 岡本 力 先生

長野県教育委員会事務局学びの改革支援課 指導主事 佐久 浩信 先生

長野県松本工業高等学校 教諭 有賀 久雄 先生

⑥科目・単元： 情報 I 「情報技術が社会に及ぼす影響」

(1) 単元指導計画（全3時間）

1. 発展する情報技術と生活の変化
2. インターネット上でのさまざまなトラブル…本時
3. 情報発信時の注意点（情報技術の適切な活用方法の検討）

(2) 本時の計画

1. 本時の題目（本時の学習問題の設定，主な学習活動）

本単元では，これまで多くの時間を有し，時代の変化に対応しづらいルール指導重視型の情報モラル教育を改善し，生徒が「現在の情報技術を使うことで何が可能になるのか，どんな問題を引き起こすのか」，「人と関わる上で，赦されないことは何か」の二つの観点から，情報技術を扱う行為を行ってよいか否かを，自身で検討，考察する学習活動を実施した。

本時は，前時の復習として，情報技術の進展，それによる社会の利便性の拡大を復習した上で，読者投書である新聞記事①を生徒に配布し，ワークに取り組みながらネット社会に怖さを感じている人たちがいることを認識させた。前時の授業，そして生徒たち自身の経験の中で感じている情報技術の進展による利便性と，新聞記事に見る他者が感じる「怖さ」，この両者の「ずれ」を生徒に感じさせ，生徒との対話のなかで，「ずれ」をもとに授業のテーマを「情報社会の“怖さ”とは一体どのようなものか？」として設定した。

学習活動としては，情報社会の諸問題（SNS上の匿名の誹謗，迷惑行為など）に関する新聞記事を「それらの問題がなぜ赦されないのか」という観点で分析させ，情報社会で必要な道徳的な意識を引き出していく学びを实践した。

2. 本時の目標

生徒自身が情報技術を利用して持っている意識を念頭に，情報社会における諸問題について，実態を諸資料から読み取り，理解する。さらに，それがなぜ赦されないのかという倫理的・道徳的観点から自身の考えをまとめ，表現することができる。

3. 本時の展開

段階	学習内容 (指導内容)	指導上の留意点	時間	備考 資料
導入	<ul style="list-style-type: none">・前時の復習（情報技術の発展について）・ロイロノートで配信された新聞記事①を読み，新聞の見出しを考え，ネット社会の進展は良いことだけでなく課題があることを生徒が認識する。・前時の学習内容と資料とのずれをもとに学習問題を設定する。	<ul style="list-style-type: none">・前時の内容の情報技術の進展のポジティブな側面と，建設標の高校生が示すネガティブな側面から，認識のずれを生み出し，学習問題を設定する。・読み取りが苦手な生徒には机間巡視のなかで指導を行う。	20分	<ul style="list-style-type: none">・授業プリント(1)・新聞記事①
【本時の“問い”】情報社会の“怖さ”とは一体どのようなものか？				
展開	<ul style="list-style-type: none">・予想をたてる・ロイロノートで配信された新聞記事②～④を読み，授業プリントで，どのような問題が生じているのかを読み取り，まとめる。また，上記内	<ul style="list-style-type: none">・読み取りが苦手な生徒には机間巡視のなかで指導を行う。・まとめたものはロイロノートの提出箱機能を使って，生徒間での共有を	25分	<ul style="list-style-type: none">・新聞記事②～④

	<p>容を念頭に、それらの問題がなぜ赦されないかという考察を、生徒が持っている道徳的な意識を基に判断し、まとめる。(時間次第で複数読ませる)</p> <p>・新聞記事⑤を読み、道徳的な意識による判断なしに情報技術が不正につながるかどうか読み取り、情報社会に“怖さ”を認識する。</p>	<p>可能にしておく。</p> <p>・新聞記事⑤については、あえて紙媒体で配布する。</p>		<p>・新聞記事⑤ (授業プリント(2))</p>
まとめ	<p>・R80 を用い、本時の“問い”の答えをまとめて、Google Classroom で提出。</p>	<p>・Google Classroom に提出用の課題をタブレットに送る</p>	5分	

※ 使用した新聞記事

- ① 信濃毎日新聞 平成 28 年 3 月 15 日 (火) 【建設標】 ネット社会怖さ いま一度考えて
- ② 信濃毎日新聞 令和 5 年 1 月 31 日 (火) 回転ずしで悪質行為 拡散 SNS に相次ぐ動画
- ③ 信濃毎日新聞 令和 2 年 3 月 11 日 (水) 授業以外でネット利用 小学生の 5 割超 スマホで
- ④ 信濃毎日新聞 平成 29 年 5 月 10 日 (水) SNS トラブル相談 過去最多 中高年 5～7 倍に急増
- ⑤ 信濃毎日新聞 令和 2 年 5 月 26 日 (火) 匿名の中傷 木村さんに集中 「テラスハウス」出演 メモ残し死亡

4. 本時のポイント (特に新聞活用に関わる点)

- (1) 学習問題を念頭に、生徒たちにはロイロノートで、情報社会における諸問題に関わる新聞記事②～④を配信し、その記事の一つを選択して読ませ、ワークシート上に、「どんな問題、トラブルが起きているか?」、「この問題はなぜ赦されないのか?」の 2 つの観点でまとめさせた。記事が示す情報社会における事件、トラブルの概要を捉え、それらが赦されない理由を生徒が思考し、自らの道徳的な意識を引き出す学習場面として設定した。後者の観点に基づいて、生徒が新聞記事を読み、情報社会で起きている問題点をまとめた。この、生徒が新聞記事を読み、取り上げられる問題を分析する主体的な学習活動のなかで、道徳的な意識を引き出すことができた。
- (2) 新聞記事から何が赦されないかを分析したところで、「このような“赦されない”ことを私たちがしてしまうとどうなるのか?」と問いかけをし、新聞記事⑤を掲載した 2 枚目のワークシートを配布し、記事の読み取りをさせた。木村花氏が SNS 上での誹謗中傷を苦に自死した事件から、情報社会における道徳的な意識の重要性を確認させることができた。

(以下は使用した新聞記事、詳細は本時の展開に記載、新聞記事①は投書記事のため掲載しない)

新聞記事② 2023 年 1 月 31 日付 信濃毎日新聞



(6) 生徒の反応

① 新聞閲覧コーナーや記事の掲示について

昨年度からNIE研究指定校とされる以前から、各学年のフロアに新聞と読むための書見台を設置しており、日常的に新聞に触れられる環境を作ってきた。さらに、生徒の興味を持つような新聞記事を校舎内に掲載することで、比較的容易に新聞を閲覧できるようになったと思われる。いずれの学年でも、空き時間に新聞を読む生徒の姿が見られるようになった。

② 公開授業 「情報技術が社会に及ぼす影響」—情報社会におけるさまざまなトラブル—

生徒が自ら新聞記事を読み、「情報社会を生きる上で何が赦されないのか？」を実際の事件から考える学習活動にすることで、実社会とのつながりのある学びにすることができ、さらに生徒による主体的な学習につなげる改善ができたと考えている。

生徒の、学びに打ち込む姿は極めて真剣なものであった。この姿から、記事を書いている新聞記者の「伝えたい」という気持ちが、生徒の「学びたい」につながるのだということを感じた。生徒の学習に対する動機付けの観点からも、NIEの有効性が垣間見えた。

(7) 成果と課題

成果の一つとして、新聞を活用することで生徒主体の学習へと改善を図れたことである。新聞は他のメディアと異なり、読者が数多ある記事に目を通し、「読む」という主体的な行為をすることによって情報を伝える、いわば読者による情報発信メディアである。この特性からもわかるように、主体的な学習との親和性は極めて高い。そのような学習への改善を図れたことは成果だと考える。

また、この実践指定校の二年間で、様々な校種の公開授業に参加し、様々な活用方略を見させていただいたが、それらを自分の学校に置換できたことも、大きな成果であると考えている。特に、児童の活動と関連性が高い新聞記事から総合的な学習の時間を進める小学校の事例や、歴史総合において学習した新聞記事の中身から大衆化社会について考察する高等学校の事例は非常に参考になり、本校での学習活動にも活用させていただいた。校種を超えて、様々な実践を生かした学習活動を行うことができたことも成果の一つであると思っている。

そして本年度は、昨年度に比べて新聞を活用する動きが校内に広がったと考えている。昨年度は地理歴史科と生徒会活動での実践がメインであったが、本年度はこれらでの活動に加え、国語科や情報科、図書館などでの実践が見られた。校内で広がりを見せたことは非常にうれしいことだと思っている。